

棚田耕吉植物標本コレクション

有川智己¹・米澤朋子^{1*}・田中昭彦²

Plant specimens collected by the late Mr. Koukichi Tanada

Tomotsugu ARIKAWA¹, Tomoko YONEZAWA¹ and Akihiko TANAKA²

キーワード：維管束植物，植物標本，鳥取県

Key Words: vascular plant, plant specimen, Tottori prefecture

2006（平成18）年10月，米子市八幡町在住の棚田耕吉氏がご自身で採集された植物標本コレクションが寄贈された。鳥取県立博物館では，2009（平成21）年からこれらの標本の整理に取り組み，このたび整理を終えたので，このコレクションの特徴を紹介し，特筆すべき資料を紹介する。なお，このコレクションの標本データは，鳥取県立博物館の収蔵資料データベースで公開する予定である。

コレクションの概略

棚田耕吉氏は，1926（大正15）年10月3日生まれで，鳥取農林専門学校卒業後，高校で教師をされるかたわら，鳥取県西部の人里植物や帰化植物の研究を中心に採集活動をされてきた。1975（昭和50）年ごろから，大山の自然保護に資するべく山麓部の植生調査を盛んに行い，著書として，伯耆文庫『大山の植物レポート キャラボクの訴え』（棚田1987）をまとめている。また，研究成果は鳥取県生物学会誌「鳥取生物」にも掲載されている（棚田1997）。共著として『花ごよみ大山』（小西ほか1993），『花ごよみ大山II』（小西ほか1998）などがある。

棚田耕吉植物標本コレクションは，整理の結果4,055点となった。このうち1点はコケ植物オオミズゴケ *Sphagnum palustre* L. の押し葉標本（1992年8月10日，

日野郡日南町宝谷で採集）であったが，それ以外はすべて維管束植物の標本であった。維管束植物の標本4,054点は，161科1537種類（科はAPG分類体系，米倉2012参照）からなり，そのうち20科142種類647点がシダ植物，4科10種類16点が裸子植物，残りの137科1385種類3391点が被子植物であった。

もっとも古い標本は1958年5月28日日野郡江府町下安井で採集されたイヌザクラ（バラ科）*Padus buergeriana* (Miq.) T.T.Yü et T.C.Ku であるが，同年7月25日に日野郡日南町大倉山で2点，1960年6月3日に東伯郡三朝町で2点の標本が採集されて，1961年6月27日に西伯郡大山町大沢池でガマ（ガマ科）*Typha latifolia* L. が採集された以外は，1990年代以降まで標本が存在しない。すなわち，4,055点の標本のうち4,049点は1990年から2005年までの16年間にコンスタントに取られた比較的新しい標本である（表1）。

また，すべての標本の91.8%にあたる3,723点が鳥取県産であり，そのうちほとんどが鳥取県でも西部で採集されたものである（図1）。県外産の332点についても，岡山県が240点，島根県が83点，兵庫県が8点，京都府が1点で，鳥取県西部の周辺からの採集品がほとんどである。16年間の限られた期間に，鳥取県西部で集中して植物の採集・研究を行っていたこ

¹ 鳥取県立博物館 〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2-124
Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

* E-mail: yonezawa-to@pref.tottori.jp

² 〒680-0081 鳥取県鳥取市岩倉441-12
Iwakura 441-12, Tottori, 680-0081 Japan

[受領 Received 10 January 2013 / 受理 Accepted 11 January 2013]

表1 1990年から2005年までの採集標本点数

年(西暦)	標本数(点)
1990	625
1991	907
1992	727
1993	519
1994	287
1995	96
1996	101
1997	165
1998	158
1999	136
2000	42
2001	84
2002	35
2003	50
2004	58
2005	59

とが伺える。また、ほとんどの標本には重複標本 duplicate が作られている。1996(平成8)年に寄贈された川上明敏コレクション(清末・田中2002; 鳥取県立博物館2003)は、ほぼ同じ地域から集められているが、1953年から1994年にかけての採集品からな

るコレクションである。よって、この両者のコレクションをあわせることで、鳥取県西部の植物相の変遷を約50年にわたって詳細に解析することができる。

2006年に寄贈された標本は、2009年から約4年をかけてこのたび整理を終えたが、棚田氏は2012年、85歳で逝去され、我々は整理結果をご本人に直接報告することはできなかった。残念でならない。

特筆すべき資料

オサシダ(シシガシラ科) *Blechnum amabile* Makino
鳥取県準絶滅危惧

1993年9月8日、日野郡日野町不動嶽で採集。

レッドデータブックとっとり改訂版(田中2012)では、自生地は少なく、県内東部にまれとしており、分布域として若桜町、智頭町、鳥取市用瀬町・佐治町、三朝町をあげている。しかし、この標本は、県西部にも本種が生育していたという記録として重要である。

ミヤマシシガシラ(シシガシラ科) *Blechnum castaneum* Makino

鳥取県絶滅危惧II類

1991年8月25日、鳥取市佐治町高鉢山で採集。

レッドデータブックとっとり改訂版(田中2012)では、県内の自生地はきわめて少数としており、扇ノ山、高鉢山、高山を生育地としてあげている。棚田コレクションでは数少ない県東部での採集品である。

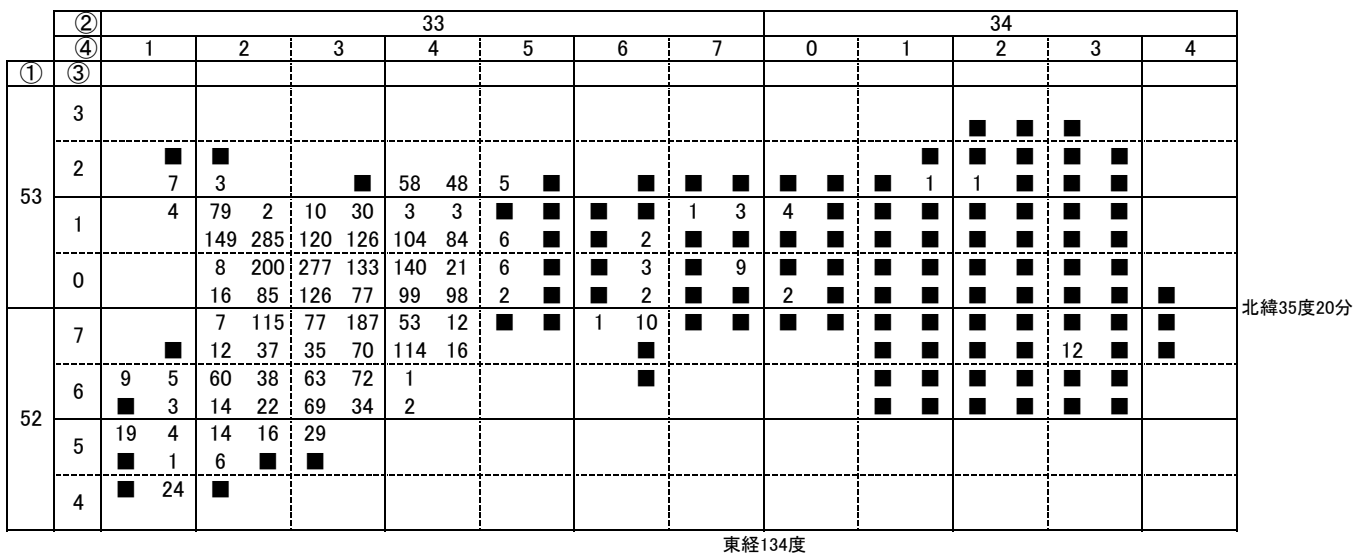


図1 棚田耕吉植物標本コレクションに含まれる鳥取県内で採集された標本の採集地ごとの標本点数。

①から④の数字の組み合わせで標準地域メッシュの第2次メッシュを示す。2次メッシュを4分割した方形区ごとに、標本点数が示されている。たとえば、メッシュコード5333-12の第2次メッシュを4分割したうちの南東の方形区でとられた標本点数は285点である。標本がない方形区には■を示した。

オオクゲ (カヤツリグサ科) *Carex rugulosa* Kük.

環境省準絶滅危惧, 鳥取県絶滅危惧 II 類

1992 年 5 月 31 日と 1997 年 5 月 15 日, 米子市彦名で採集。

本種は汽水域の湿地に生育する大型の多年生草本で, レッドデータブックとっとり改訂版 (神谷 2012) によれば, 県内では中海沿岸にのみ生育している。

コマツカサススキ (カヤツリグサ科) *Scirpus fuirenoides* Maxim.

鳥取県絶滅危惧 II 類

1991 年 9 月 10 日, 日野郡日野町久住で採集。

レッドデータブックとっとり改訂版 (浜田 2012) によれば, 県内では, 日南町に数カ所生育するほかは 2 カ所 (日野町と鳥取市内) に生育するとされている。

ミヤマハンノキ (カバノキ科) *Alnus viridis* (Chaix) Lam. et DC. subsp. *maximowiczii* (Callier) D.Löve

鳥取県絶滅危惧 II 類

1990 年 6 月 23 日, 日野郡江府町烏ヶ山で採集。

本種は, 加賀白山以北の亜高山・高山帯に生育する低木であるが, 烏ヶ山山頂部に隔離分布している (永松・清水 2012)。

トモエソウ (オトギリソウ科) *Hypericum ascyron* L. var. *ascyron*

鳥取県準絶滅危惧

1992 年 9 月 26 日, 日野郡日南町板井谷で採集。

レッドデータブックとっとり改訂版 (野津 2012) によれば, 本種は, 県内各地の山間水湿地に分布していたが, 現在では自生地, 個体数ともに激減しており, 現在では日南町と江府町に生育しているという。

ゲンカイツツジ (ツツジ科) *Rhododendron mucronulatum* Turcz. var. *ciliatum* Nakai

環境省準絶滅危惧, 鳥取県絶滅危惧 II 類

1992 年 9 月 15 日, 26 日, 1993 年 4 月 19 日, 日野郡日南町で採集。

山地の岩場など荒れた土地に生育する低木で, 朝鮮半島に多いが, 日本列島にも九州北部を中心に隔離的な分布をしている。鳥取県内では日野町から日南町にかけての範囲にのみ点在している (矢田貝 2012)。

キヌタソウ (アカネ科) *Galium kinuta* Nakai et H.Hara

鳥取県準絶滅危惧

1998 年 6 月 4 日と 1999 年 7 月 26 日, 日野郡日南

町お墓山で採集。

レッドデータブックとっとり改訂版 (藤原 2012) によれば, 県内では孤立的に点在しているとされており, 若桜町, 三朝町, 倉吉市関金町, 日南町が分布地として挙げられている。

イナモリソウ (アカネ科) *Pseudopyxis depressa* Miq.

鳥取県絶滅危惧 II 類

1993 年 6 月 16 日, 西伯郡南部町で採集。

山地の湿った林内に生育する小型の多年生草本で, 県内での自生地は南部町内に 1 カ所知られているのみである (鳥取県自然環境調査研究会 2002; 藤原 2012)。

キセワタ (シソ科) *Leonurus macranthus* Maxim.

環境省絶滅危惧 II 類, 鳥取県絶滅危惧 II 類

1990 年 9 月 6 日, 東伯郡琴浦町船上山で採集。

県内には琴浦町と日南町に分布する (藤原 2012)。レッドデータブックとっとり改訂版 (藤原 2012) によれば, 船上山ではササとクズが繁茂してきており, キセワタは被陰されて 2010 年は開花せず, このままでは個体群は衰退するという事である。

カンボク (スイカズラ科) *Viburnum opulus* L. var. *sargentii* (Koehne) Takeda

鳥取県準絶滅危惧

1996 年 6 月 27 日と 1999 年 6 月 1 日, 日野郡日南町で採集。

県内では山地に孤立的に生育し, 個体数も少ない。レッドデータブックとっとり改訂版 (藤原 2012) によれば, 県内では日南町にのみ生育している。

キキョウ (キキョウ科) *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.

環境省絶滅危惧 II 類, 鳥取県準絶滅危惧

1991 年 7 月 30 日, 日野郡溝口町榎水で採集。

以前は各地の草山に見られたが, 遷移の進行や植林による草地の減少にともない希少化してきている (松田 2012)。

ウラギク (キク科) *Aster tripolium* L.

環境省絶滅危惧 II 類, 鳥取県絶滅危惧 I 類

1990 年 10 月 21 日, 米子市彦名干拓地で採集。

海岸湿地に群生する越年生草本で, 鳥取県内では米子市内の干潟のもっとも奥まった場所に生育する (神谷 2012)。

ヤナギタンポポ (キク科) *Hieracium umbellatum* L.
鳥取県絶滅危惧 I 類

1992 年 9 月 7 日, 日野郡江府町三平山麓で採集。

過去には, この標本の採集地を含め, 県内中西部の道ばたや草原, 湿原などに数カ所記録があった(鳥取県自然環境調査研究会 2002) が, 現在では県内の自生地は伯耆町の 1 カ所のみとなっている(矢田貝 2012)。本標本は, 今では失われてしまった生育地の貴重な記録である。

また, 県内東部からしか報告がなかったシダ植物ナガバノイタチシダ *Dryopteris sparsa* (Buch.-Ham. ex D. Don) Kuntze (鳥取県絶滅危惧 II 類) が, 1993 年と 2001 年の 2 回, 西伯郡西伯町鴨部で採集されていた。これについては, 米澤ほか (2012) ですでに報告した。鳥取県では, 2002 年に県のレッドデータブック(鳥取県自然環境調査研究会 2002) を作製した。棚田耕吉氏が 1990 年から調査・採集した成果は, このレッドデータブックに反映されており, 鳥取県西部の希少植物の重要な基礎資料となっている。また, 棚田氏は, 帰化植物を含む人里植物に関心を寄せていたので(棚田 1997), 本稿ではとくに触れなかったが, コレクション中にも近年帰化した植物の証拠標本なども含まれている。

引用文献

- 藤原文子 (2012) キヌタソウ・イナモリソウ・キセワタ・カンボク. pp.298, 299, 301, 312. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 浜田幸夫 (2012) コマツカサススキ. p.230. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 神谷 要 (2012) オオクグ・ウラギク. p.227, p.315. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 清末幸久・田中昭彦 (2002) 故川上明敏氏採集標本の特徴と特筆すべき資料. 郷土と博物館 91: 1-6.
- 小西毅・棚田耕吉・川上明敏・鷺見寛幸 (1993) 花ごよみ大山. 米子今井書店, 270pp.
- 小西毅・棚田耕吉・川上明敏・鷺見寛幸・宮倉誠 (1998) 花ごよみ大山 II. 米子今井書店, 270pp.
- 松田万由美 (2012) キキョウ. p.314. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 永松大・清水寛厚 (2012) ミヤマハンノキ. p.245. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 野津 昭 (2012) トモエソウ. p.260. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 棚田耕吉 (1987) 大山の植物レポート キャラボクの訴え. 今井書店, p.194.
- 棚田耕吉 (1997) 鳥取県西部地域における帰化植物の推移と現況. 鳥取生物 30: 21-24.
- 田中昭彦 (2012) オサシダ・ミヤマシシガシラ. p.197. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 鳥取県立博物館 (2003) 川上明敏 植物コレクション目録 (維管束植物). 鳥取県立博物館所蔵目録 47: 1-62.
- 鳥取県生物学会 (編) (2012) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 鳥取県自然環境調査研究会 (編) (2002) レッドデータブックとっとり. 鳥取県, 203pp.
- 矢田貝繁明 (2012) ゲンカイツツジ・ヤナギタンポポ. p.290, p.318. In: 鳥取県生物学会 (編) レッドデータブックとっとり改訂版. 鳥取県, 337pp.
- 米倉浩司 (2012) 日本維管束植物目録. 北隆館, 379pp.
- 米澤朋子・有川智己・田中昭彦 (2012) 鳥取県におけるナガバノイタチシダの新産地. 山陰自然史研究 8: 37-38.